「あ」で始まる語彙辞典（メジャー）

小説・ラノベの文章表現を
豊かにしよう

はじめに

こちらの語彙辞典は、
小説投稿サイト『小説家になろう』で公開している
【小説・ラノベの書き方講座｜ビジネス思考の創作論】の中の
『小説・ラノベの文章表現を豊かにする 50 音別の語彙辞典』を
ＰＤＦレポート形式に整理したものです。

多くの語を記憶することで、
あなたの文章表現力は
今よりも豊かなものとなります。

『１日５語ずつ』といったように目標を決めて、
今の自分が知らない語を暗記していきましょう。

なお、こちらの語彙辞典は
ノマドクリエイターのショウヘイが
趣味の一環で制作したものです。

商用で販売するつもりは一切ないので、
あなたの友人・知人の作家仲間に
自由に配布してくださって構いません。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

目次

はじめに 2

「あ」で始まる語彙辞典（メジャー） 4

おわりに 113

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

「あ」で始まる語彙辞典（メジャー）

あい - あい【哀々】
［ト・タル］［形動タリ］
深く悲しむ様子。悲しく哀れな様子。「―しい姿」

あい - あい【靄々】
［ト・タル］［形動タリ］
雲やモヤが集まり、棚引く様子。「朝もやが―と立ち込めた高原」

あいあい - し・い【愛々しい】
［形］あいあい・し［シク］
可愛らしい。愛らしい。「―・く微笑む」

あい - いく【愛育】
［名］（スル）
かわいがって育てること。「子を―する」

あい - いん【合（い）印】
別の帳簿や書類と対照したしるしに押す印。合い判(はん)。あいじるし。

あい - いん【愛飲】
［名］（スル）
いつも好んで飲むこと。「ウィスキーを―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - う・つ【相打つ／相撃つ】
［動タ五（四）］
力を尽くしてうち合う。互いに戦う。「竜虎―・つ」

あいえん - きえん〔合（い）縁奇縁／相縁機縁】
人と人との気心が合うも合わないも、不思議な因縁によるということ。

あい - えつ【哀咽】
［名］（スル）
悲しんでむせび泣くこと。悲しみで声をつまらせること。「子の死を悲しんで―する」

あいえん - か【愛煙家】
タバコを好んで吸う人。タバコ好き。

あい - えん【哀艶】
［形動］［ナリ］
美しさの中に悲しみの感じられるさま。「あわただしき花の名残の―なるかたも」

あい - えん【哀婉】
［形動］［ナリ］
あわれで美しく、しとやかなさま。「―な恋情」

あい - えつ【哀咽】
［名］（スル）
悲しんでむせび泣くこと。悲しみで声をつまらせること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - おい【相生】
一つの根元から二つ幹が分かれて伸びること。また、2 本の幹が途中で一緒になっていること。「―の松の木」

あい - おい〔あひ - 〕【相老】
《「相生(あいおい)」の「生い」に「老い」の意を掛けた語》
夫婦が仲よく連れ添って長命である。

あい - おん【哀音】
悲しげな音や声。「―悲調」

あい - か【哀歌】
悲しい気持ちを表した歌。悲歌。エレジー。

あい - かん【哀感】
もの悲しい感じ。悲しみや哀れを誘う感じ。「―が漂う」「―を込める」

あい - かん【哀歓】
悲しみと喜び。「人生の―を共にする」

あい - がかり【相懸（か）り】
① 将棋の序盤で、両方とも同じ駒の陣形を作って攻め合うこと。
② 敵味方が同時に攻めかかること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - がみ【間紙】
① 傷や汚れがつかないように、物と物との間に挟む紙。
② 印刷しおわった紙の間に挟んで、インクの汚れを防ぐ紙。

あい - がん【哀願】
［名］（スル）
事情を述べて相手の同情心に訴え、ひたすら頼むこと。「助命を―する」

あい - がん【愛玩／愛翫】
［名］（スル）
大切にし、かわいがること。多く、小さな動物についていう。また、いつくしみ楽しむこと。「―犬」

あい - き【哀毀】
父母などの死を悲しむあまり、体がやせ衰えること。「―骨立（こつりつ）」

あい - きゃく【相客】
① 同じ場所で、たまたまそこに来合わせた客。
② 旅館などで、他の客と相部屋になること。また、その客どうし。

あい - きゅう【哀求】
［名］（スル）
事情を述べ、相手の同情に訴えて願い求めること。「役人に―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - きゅう【哀泣】
［名］（スル）
悲しんで泣くこと。「親の死を―する」

あい - きょう【愛郷】
生まれ故郷を愛すること。「―の精神」

あい - きょう【哀叫】
［名］（スル）
悲しそうに泣き叫ぶこと。「最愛の妻の死に―する」

あいきょう - しょうばい【愛嬌商売】
愛嬌を振りまくことが繁盛に結びつく商売。芸人や料理屋などの類。

あいきょう - づ・く【愛嬌付く】
［動カ五（四）］
愛嬌のあるようすになる。表情などがかわいらしくなる。

あいぎょう - づ・く【愛敬付く】
［動カ四］
かわいらしさが備わる。

あいきょう - ぼくろ【愛嬌黒子】
顔に愛嬌を添えるほくろ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あいきょう - もの【愛嬌者】
ひょうきんで人々にかわいがられる人や動物。

あいきょう - わらい【愛嬌笑い】
相手によい印象や好感を与えようとして浮かべる、ちょっとした笑い。愛想笑い。

あい - ぎん【愛吟】
［名］（スル）
好きな詩歌などを折にふれて口ずさむこと。

あい - くち【合（い）口】
①（「匕首」と書く）鍔(つば)のない短刀。九寸五分。「ふところに―をのむ」
② 人と何かをするときの相性。「彼とは―がいい」
③ 互いに話が合い、気心の合うこと。また、その間柄。

あい - ぐう【愛遇】
［名］（スル）
心をこめてもてなすこと。

あい - ぐすり【合（い）薬】
飲む人の体質・病状などに合っていて、効き目の顕著な薬。適薬。

あい - こう【愛校】
自分の出身校または在学する学校を愛すること。「―心」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - こく【哀哭】
［名］（スル）
声をあげて泣き悲しむこと。「己の身の境遇を―する」

あい - ことな・る【相異なる】
［動ラ五（四）］
互いに違っている。「―・る意見」「―・る二つの命題」

あい - ご【相碁】
囲碁の腕前が同等なこと。また、その人。

あい - ごう【哀号】
［名］（スル）
人の死を悲しんで大声で泣き叫ぶこと。また、その泣き声。「告別式にひびく―」

挨拶（あいさつ）切・る
縁を切る。関係を断つ。「旧友と―・る」

あい - さん【愛餐】
キリスト教会で信徒が共にする食事。アガペー。

あい - ざかり【愛盛り】
幼児のかわいらしい盛り。「―の子ども」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - ざしき【相座敷】
同じ座敷に居合わせること。「―に勧進比丘尼の美しき者が二人泊まっている」

あい - し【哀史】
悲しい出来事をつづった物語。悲しい歴史。「吉野朝―」

あい - し【哀思】
ものがなしい気持ち。「―に沈む」

あい - じつ【愛日】
《「春秋左伝」文公七年の注「冬日愛すべし、夏日畏るべし」から》
冬の日光。⇔畏日(いじつ)。

あい - しゃ【愛社】
自分の勤務する会社を大切に思うこと。「―精神」

あい - しゅう【愛執】
愛するものに心がとらわれて離れられないこと。愛着(あいじゃく)。「―の念を断つ」

あい - しょう〔 - シヤウ〕【愛唱】
［名］(スル)
ある歌を、日ごろ好んでうたうこと。「国民的な―歌」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - しょう【哀傷】
［名］（スル）
① 心に深く感じて物思いに沈むこと。
② 人の死を悲しみ嘆くこと。「―歌」

あい - しん【愛心】
いつくしみ愛する心。

あい - じゃく【相酌】
互いに酌をしあって酒を飲むこと。

あい - しょ【愛書】
本が好きで、大切にすること。「―家」

あい - しょう【愛妾】
気に入りのめかけ。

あい - しょう【愛誦】
［名］（スル）
ある詩歌や文章などを好んで口ずさむこと。

あい - しょう【愛称】
親しみを込めてよぶ呼び名。ニックネーム。ペットネーム。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - しょく【愛食】
［名］（スル）
いつも好んで食べること。「新潟産のコシヒカリを―する」

あい - じょう【哀情】
悲しく思う心。悲心。「―を催す」

あい - じょう【愛嬢】
かわいがっている大切な娘。まなむすめ。他人の娘についていう。⇔愛息。

あい - しん【愛心】
いつくしみ愛する心。

アイスクリーム - ずつう【アイスクリーム頭痛】
アイスクリームやかき氷などを急いで食べた際に、こめかみなどが痛むこと。原因としては、急激に低下した口内の温度を元に戻そうとして一時的に血管が拡張し、痛みを引き起こすため、また、三叉神経が強い冷たさを痛みと誤認して脳に伝達するためなどと考えられている。

アイス - ペール【ice pail】
砕いた氷を入れて卓上に置く容器。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - す・む【相済む】
［動マ五（四）］《「すむ」の改まった言い方》
① 物事が終わる。かたがつく。「式は滞りなく―・みました」
② 義理や義務が果たせる。多く打消しの形で謝罪や感謝の意を表す。「これでは、私の気持ちが―・みません」

あい - せき【愛惜】
［名］（スル）
① 愛して大切にすること。あいじゃく。「―する本」
② 名残惜しく思うこと。「過ぎ去った青春を―する」

あい - せき【哀惜】
［名］（スル）
人の死など、帰らないものを悲しみ惜しむこと。「―の念に堪えない」

あい - せつ【哀切】
［名・形動］
非常に哀れでもの悲しいこと。また、そのさま。「―を極めた物語」

あい - せっ・する【相接する】
［動サ変］あひせっ・す［サ変］
① 互いに触れる。接し合う。「二つの曲線が―・する点」
② つきあう。交際する。

あい - ぜつ【哀絶】
［名・形動］
非常に悲しいこと。また、そのさま。「壮絶―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - ぜん【哀然】
［ト・タル］［形動タリ］
悲しげなさま。「―たる背中」

あい - ぜん【靄然】
［ト・タル］［形動タリ］
雲・霞かすみ）などがたなびいたり、もやが立ちこめるさま。「―たる暁霞（ぎょうか）」

あい - ぜんご・する【相前後する】
［動サ変］あひぜんご・す［サ変］
① 物事の順序が逆になる。「説明が―・しますが」
② 事柄が間をおかずに続く。「二人は―・して出発した」

あい - そ【哀訴】
［名］（スル）
同情をひくように、強く嘆き訴えること。哀願。「減刑を―する」

あい - ぞう【愛蔵】
［名］（スル）
いつくしんで大切に所蔵すること。「―版」

あい - そく【愛息】
かわいがっている大切な息子。他人の息子についていう。⇔愛嬢。

あいそ - づかし【愛想尽かし】
相手に対して好意や愛情をなくすこと。また、それを示す言葉や態度。「―を言う」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

愛想(あいそ)も小想(こそ)も尽(つ)き果・てる
《「こそ」は口調をよくするために添えたもの》
あきれ果てて、全く好意が持てなくなる。

あいたい - ずく【相対尽く】
互いに承知して事を決めること。相談ずく。

あい - たい・する【相対する】
［動サ変］あひたい・す［サ変］
① 互いに向かい合う。また、直面する。「テーブルをはさんで―・して座る」
② 反対の立場に立つ。対立する。「―・する意見」

あい - たずさ・える【相携える】
［動ア下一］あひたづさ・ふ［ハ下二］
互いに手をつなぐ。連れ立つ。「二人は―・えて国境を越えた」

間(あいだ)に立(た)・つ
当事者の間に入って、交渉や話し合いが成立するようとりまとめる。仲介する。間を取り持つ。

あい - ちょう【愛重】
［名］(スル)
愛して大事にすること。「形見の茶碗を―する」

あい - ちょう【愛鳥】
鳥をかわいがること。特に、野鳥を愛護すること。「―家」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - つう【哀痛】
［名］（スル）
心から悲しみ嘆くこと。「子の死を―する」

あい - つう・ずる【相通ずる】
［動サ変］あひつう・ず［サ変］
① 共通する。似ている。「二人の作風には―・ずるものがある」
② 理解しあう。わかり合う。「気持ちが―・ずる」
③ 互いに連絡する。つながりをもつ。「敵方と―・ずる」「気脈を―・ずる」

あい - つと・める【相勤める】
［動マ下一］あひつと・む［マ下二］「勤める」の改まった言い方。
「骨身を惜しまず―・めます」

相手（あいて）変われど主（ぬし）変わらず
相手が変わっても、こちらは相変わらず同じことを繰り返している。

あい - でし【相弟子】
同じ師について学んだり、修業したりする人どうし。兄弟弟子。

相手（あいて）見てからの喧嘩声（けんかごえ）
相手が自分より弱そうだとわかってから、急に威圧するような態度で声を出す、からいばりの行為。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - てら・す【相照らす】
［動サ五（四）］
互いに照らし合う。相互に効果を与え合う。「二つの文献を―・してみると」「肝胆―・す」

あい - とう・ずる【相投ずる】
［動サ変］あひとう・ず［サ変］
互いに一致する。ぴったり合う。「初対面だが、たちまちに意気―・じた」

あい - どく【愛読】
［名］（スル）
特定のものを好んでよく読むこと。「鴎外の作品を―する」「―書」

あい - どし【相年】
互いに同じ年齢であること。

あい - ともな・う【相伴う】
［動ワ五（ハ四）］
① あわせ持つ。「名実―・う」
② 一緒に行動する。連れていく。「弟子を―・って旅に出る」

アイドル - タイム【idle time】
交通機関や店などがすいている時間帯。また、機械・工場などで一部の機能・設備が稼働していない時間。遊休時間。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - なかば・する【相半ばする】
［動サ変］あひなかば・す［サ変］
互いに半分ずつである。同じくらいである。「功罪―・する」

あいな - だのみ【あいな頼み】
あてにならない頼み事。一説に、分に過ぎた期待の意とも。

あい - な・る【相成る】
［動ラ五（四）］
「なる」の改まった言い方。「いかが―・りましょうか」

愛(あい)に愛(あい)持(も)つ
かわいい上にかわいらしい、愛敬たっぷりなさまの表現。愛に愛らし。

あい - ねん【愛念】
① 非常にいとしく思うこと。深く愛する気持ち。
② 男女の愛情。「男女の―」

あい - の - くさび【間の楔】
① 木材などの継ぎ目を固定するために打ち込むくさび。
② きまった仕事の合間に、他の仕事をすること。また、その合間の仕事。あいのつなぎ。
③ 物事の流れが途切れないよう、他のものを挿入して間をもたせること。また、そのもの。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - の - けっしょう【愛の結晶】
愛情で結ばれた男女の間にできた子。

あい - のり【相乗り】
［名］（スル）1
① 本来は別々に利用する人たちが、一つの乗り物に同乗すること。「タクシーの―」
② 他で進めている事業に加わること。また、共同で行うこと。「―広告」

愛（あい）は惜しみなく与う
真の愛は、自分の持つすべてのものを相手に与えても惜しいものではない。

愛（あい）は惜しみなく奪う
《「愛は惜しみなく与う」をもとにした言葉》
人を愛するということは、相手のすべてを奪って自己のものにしようとすることである。

あい - は・てる【相果てる】
［動タ下一］あひは・つ［タ下二］
「果てる」の改まった言い方。死ぬ。終わる。「みずから―・てる」

あい - ばさみ【相挟み】
数人で一つのものを箸（はし）で挟み合うこと。また、箸から箸へ受け渡すこと。火葬の骨揚（こつあ）げのときの習慣で、日常はこれを忌む。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - ひとし・い【相等しい】
［形］あひひと・し［シク］
互いに同じである。互いに等しい。「―・い二辺」

あい - びょう【愛猫】
① かわいがって大切にしている猫。
② 猫をかわいがること。「―家」

あい - びん【哀憫】
悲しみ哀れむこと。ふびんに思うこと。「―の念」

あい - ふだ【合（い）札】
① 品物を預かった証拠に渡す札。
② 銀行などで、順番待ちや現金を受け取るときの番号札。
③ 割符(わりふ)。

あい - ぶ【愛撫】
［名］(スル)
なでさすっていつくしむこと。「赤ん坊を―する」

あい - べつ【哀別】
［名］(スル)
別れを悲しむこと。また、悲しい別れ。「―の情」

あいべつり - く【愛別離苦】
仏語。八苦の一。愛する者と別れる苦しみ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - ぼ【愛慕】
［名］（スル）
愛して、懐かしみ慕うこと。恋慕。「―の情」

あい - ぼ【哀慕】
［名］（スル）
愛する人の死を悲しみ、その人を慕うこと。「師を―する」

あい - ぼれ【相惚れ】
男女が互いに思いを寄せ合うこと。相思相愛

あいまい - もこ【曖昧模糊】
［ト・タル］［形動タリ］
物事の内容・意味がはっきりせず、ぼんやりしているさま。「―とした状態」

あいまい - や【曖昧屋】
料理屋・茶屋・旅館などに見せかけて売春をする家。曖昧茶屋。曖昧宿。

あいみ - たがい【相身互い】
《「相身互い身」の略》
同じ境遇にある者どうしが同情し、助け合うこと。また、その間柄。「苦しい時は―」

あい - みつもり【合（い）見積（も）り／相見積（も）り】
複数の取引先などに同条件で見積もりを提出させ、比較すること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい・みる【相見る】
［動マ上一］［マ上一］
①　互いに相手を見る。対面する。「二人はこの人世で―・みることもなかっただろう」
②　男女が情を交わす。

あい - むしろ【相筵】
男女が共寝をすること。同衾(どうきん)。

あい - よみ【相読み】
一緒に読むこと。また、読み合わせ。「参考書を―する」

あい - れん【哀憐】
［名］(スル)
悲しみ哀れむこと。ふびんに思うこと。哀憫(あいびん)

あい - れん【愛憐】
［名］(スル)
哀れみ、いつくしむこと。

あい - ろ【隘路】
①　狭くて通行の困難な道。
② 物事を進める上で妨げとなるものや条件。支障。難点。「予算枠が―となって計画が中断した」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あい - わ【哀話】
哀れで悲しい物語。悲話。

あい - わ・する【相和する】
［動サ変］あひわ・す［サ変］
① 互いに親しみ合う。仲よくする。「兄弟―・する」
② 一つに交じり合う。調和する。「森と湖が―・している眺望」
③ 互いに声を合わせる。「一同―・して校歌を歌う」

合(あ)うも不思議(ふしぎ)合(あ)わぬも不思議(ふしぎ)
《「合わぬも不思議」は口調を整えるために添えた言葉》
夢や占いは、当たるのがそもそも不思議なのだということ。

あえ - な・い【敢え無い】
［形］あへな・し［ク］
① もろく、はかない。あっけない。「―・い最期を遂げる」「―・く負ける」
② どうしようもない。しかたがない。
③ 張り合いがない。手ごたえがない。

敢(あ)え無(な)くな・る
死ぬことを婉曲(えんきょく)にいう語。

あお - あお【青青／蒼蒼／碧碧】
［副］(スル)
いかにも青いさま。また、一面に青いさま。「若葉が―（と）茂る」「―（と）した海原」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あおいき - といき【青息吐息】
困って苦しいときなどに、弱りきって吐くため息。また、そのため息の出る状態。「物価高で―だ」

あお - がり【青刈（り）】
飼料や肥料にするため、作物をまだ青いうちに刈り取ること。

あおがり - しりょう【青刈（り）飼料】
飼料作物や牧草などを、青刈りにして飼料としたもの。

あお - がれ【青枯れ】
植物が青いまま急にしおれて枯れること。

あおがれ - びょう【青枯（れ）病】
根から侵入した細菌によって、ナス・トマト・タバコなどの葉が、急にしおれて青いままで枯死する病害。高温時に多く発生。

あおぎ - た・てる【扇ぎ立てる／煽ぎ立てる】
［動タ下一］あふぎた・つ［タ下二］
① 盛んに風を起こす。むやみにあおぐ。「炭火を―・てる」
② 扇動する。たきつける。「好奇心を―・てる」

あお - くさ〔あを - 〕【青草】
青々とした草。夏草。《季 夏》

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あおくび - だいこん【青首大根】
根の上部が緑色をした大根。

あお - くさ・い【青臭い】
［形］あをくさ・し［ク］
① 青草から発するようなにおいがする。「薬草の―・い絞り汁」
② 人格や言動などが未熟である。「―・いことを言う」

あお - ぐろ・い【青黒い】
［形］あをぐろ・し［ク］
青みを帯びた黒色である。「腕に―・いあざをつくる」

あお - しょせい【青書生】
年が若く、学問や技芸などが未熟な書生。また、学生を軽蔑していう語。

あお - じろ・い【青白い／蒼白い】
［形］あをじろ・し［ク］
① 青みがかって白い。「―・い月の光」
② 血の気がない顔色である。「―・い顔」

青白(あおじろ)きインテリ
理屈ばかり多くて、実行力に乏しい知識人をあざけっていう言葉。

青筋(あおすじ)を立・てる
顔面に静脈が浮き出るほど、ひどく怒ったり、興奮したりする。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あお - ず・む【青ずむ】
［動マ五（四）］
青みをおびる。青くなる。「打撲した部分が―・んできた」

あおた - がい【青田買い】
① 稲の収穫前に、その田の収穫量を見越して先買いすること。
② 企業が人材確保のため、卒業予定の学生の採用を早くから内定すること。

あお - だたみ【青畳】
① 表が新しくて青々として見える畳。
② 波の静かな青々とした海面などのたとえ。

あお - だち【青立ち】
稲の穂が実らないまま立ち枯れになっていること。また、その稲。

あおち - びんぼう【煽ち貧乏】
扇であおられるように、いつも貧乏に追われていること。いくら稼いでも抜けられない貧しい状態。

あお - どうしん【青道心】
① 出家したばかりで仏道にうとい者。今道心。新発意（しんぼち）。
② よく考えもせずに起こした信仰心。なま道心。

青菜（あおな）に塩
青菜に塩を振りかけるとしおれるように、人が元気がなくしょげるようすをいう。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あおのけ - ざま【仰のけ様】
上に向いた状態。あおむけざま。「―にひっくり返る」

青(あお)は藍(あい)より出(い)でて藍より青し
《「荀子」勧学から》
青色の染料は草の藍からとるが、それはもとの藍草よりももっと青い。弟子が師よりもすぐれていることのたとえ。出藍(しゅつらん)の誉れ。

あお - はだ【青肌】
髪の毛、ひげなどをそったあとの青々と見える肌。

あお - ば・む【青ばむ】
［動マ五（四）］
青みを帯びる。青みがかる。「草木が―・む」「野山が―・む」

あお - ひげ【青髯】
濃いひげをそったあと。

あお - び【青火】
鬼火。幽霊火。燐火(りんか)。

あお - びかり【青光り】
［名］(スル)
青く光ること。また、青色を帯びた光や光沢。「―する鉱石」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あお - ぶくれ【青膨れ】
［名・形動］（スル）
顔や皮膚が青ずんでむくむこと。また、そのさま。「―な顔」「ぶつけたところが―する」

あお - へど【青反吐】
吐いたばかりの生々しいへど。

あお - ぼうず【青坊主】
髪の毛をそった、青々とした頭。丸刈りにした頭。また、そうした人。

あお - むぎ【青麦】
穂が出る前の、青々とした麦。《季 春》

あお - やか【青やか】
［形動ナリ］
青々としているさま。「―な山々」

あお - やま【青山】
草木が青々と茂っている山。青嶺(あおね)。

あおり - た・てる【煽り立てる】
［動タ下一］あふりた・つ［タ下二］
① 風が物をひどく揺り動かす。「木戸が強風に―・てられる」
② 盛んにあおる。扇動する。「功名心を―・てる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あおり - つ・ける【煽り付ける】
［動カ下一］あふりつ・く［カ下二］
① 盛んにおだてる。おだてあげる。「―・けて幹事役を押しつける」
②（「呷り付ける」と書く）酒などを勢いよく続けて飲む。一気に飲む。「冷酒を―・ける」

あおり - がい【煽り買い】
相場をつり上げるために盛んに買いまくること。

煽(あお)りを食(く)・う
① 強い風の衝撃をまともに身に受ける。
② まわりの状況の変化で思わぬ災難や影響を受ける。「不況の―・う」

あか - あか【明明】
［副］
非常に明るいさま。「―とネオンがともる」

あか - あか【赤赤】
［副］
非常に赤いさま。真っ赤なさま。「―と燃えさかる火の手」

あかがね - いろ【銅色】
銅のように、赤黒くつやのある色。赤銅色(しゃくどういろ)。「―に焼けた肌」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

赤(あか)きは酒(さけ)のとが
《「とが」は罪の意。顔の赤いのは酒のせいで自分の罪ではない、ということから》
責任逃れをすること。

あか - がれ【赤枯れ】
草木の葉や小枝が、赤茶けてきて枯れること。

あか - ぎ【赤木】
① 皮をはぎ取ったままの木。→黒木
② 材が赤い木。梅・紫檀(したん)・蘇芳(すおう)・花梨(かりん)など。

あか - ぐされ【赤腐れ】
① 養殖中のノリが病原菌に冒され、淡赤色に変色する病害。暖冬に多く発生。
② 木材が濃い茶色に変色し、ぼろぼろに腐ること。

あか - くみ【淦汲み】
船底にたまった水をくみ取ること。また、それに用いるひしゃく・手桶(ておけ)など。あかとり。

あか - ぐろ・い【赤黒い】
［形］あかぐろ・し［ク］
赤みを帯びた黒色である。「日に焼けた―・い肌」

赤子(あかご)の手を捻(ひね)る
力が弱くて抵抗しない者はやすやすと扱うことができる。物事がきわめて容易にできることのたとえ。赤子の腕を捩(ねじ)る。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あか - じ・みる【垢染みる】
［動マ上一］
垢が染みついて汚れる。「―・みた身なり」

あかし - くら・す【明かし暮（ら）す】
［動サ五（四）］
夜をあかし、日を過ごす。月日を送る。毎日を過ごす。「悲しみのうちに―・す」

あかちゃ・ける【赤茶ける】
［動カ下一］
日に焼けたり、染料が色あせたりして赤みがかった茶色になる。「―・けた土」「―・けたカーテン」

あか - とり【淦取り】
船底にたまった水を取ること。また、その道具。すっぽん。淦取り杓(しゃく)。

あか - ぬ・ける【垢抜ける】
［動カ下一］
容姿・動作や技芸などが洗練されている。いきですっきりしている。「―・けた着こなし」

あか - はだ【赤肌】
① 皮がむけて赤くなった肌。
② 山の、草木がない赤い地肌。「―の山」
③ まるはだか。すっぱだか

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あか - ば・む【赤ばむ】
［動マ五（四）］
赤みを帯びる。赤みがさす。赤らむ。

あか - びかり【垢光り】
［名］（スル）
衣服などが垢や手ずれで光ること。「―した袖口（そでぐち）」

あか - むけ【赤剥け】
皮膚などが擦りむけて赤くなっていること。また、その部分。

あか - め【赤芽】
植物の赤みを帯びた新芽。

あか - やか【赤やか】
［形動］［ナリ］
赤い色であるさま。「―な空の色」

あから - がお【赤ら顔／赭ら顔】
赤みを帯びた顔。日焼け・酒焼けなどで赤らんだ顔、また血色のいい顔などにいう。

あから・む【明らむ】
［動マ五（四）］
明け方になって空が明るくなる。「東の空が―・む」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

赤(あか)ランプが点(とも)・る
危険を知らせる合図の赤ランプがつく。物事が悪い方向に緊迫している状態のたとえ。「膨大な負債で経営に―・る」

あかり - さき【明（か）り先】
光のさす方向。または、明かりの前方。「―に立つ」

あかり - とり【明（か）り取り】
① 光を取り入れるための窓。明かり窓。
② 外の光の取り入れぐあい。採光。

足掻(あが)きが取れない
動作が自由にならない。取るべき方法がない。

あがり - がまち【上がり框】
玄関などの上がり口に取り付けた横木、あるいは板。

あがり - ぜん【上がり膳】
食べおわって台所へ下げてきた膳。また、神仏へ供えた物を下げた膳。

上(あ)がりを請(う)・く
安値の時に買い込んで相場の上がった時に売って利益を得る。上がりを得る。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あがり - たる - よ【上がりたる世】
［連語］
遠い昔。古代。上がりての世。

あがり - なまず【上がり鯰】
《死んだ鯰がぬめりを失う意から》
遊蕩に金銭を使い果たした者をいう遊里語。

あがり - め【上がり目】
① 目じりのつり上がった目。「―下がり目、ぐるっと回って猫の目」⇔下がり目。
③ 物事の上がりはじめの時。また、そのような状態や兆候。⇔下がり目

あき - がた【飽き方】
嫌気が差してくること。飽きがきはじめた状態。

あき - かぜ【秋風】
秋に吹く風。秋になって吹いてくる涼しい風。

あき - から【空き殻】
① 肉のない貝殻。
② 中身のなくなった入れ物。

秋風(あきかぜ)が立・つ
① 秋風が吹く。
② 男女間の愛情が冷める。「二人の間に―・つ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あき - さむ【秋寒】
秋になって感じはじめる寒さ。秋冷。《季 秋》

あき - しろ【明き白／空き代】
文字などを書いた紙の、上下左右の余白。

あき - じめり【秋湿り】
秋の長雨。また、秋の長雨で冷えて湿りがちなこと。《季 秋》

あきす - ねらい【空き巣狙い】
家人の留守をねらって盗みに入ること。また、その人。

あき - ぜみ【秋蝉】
秋になってなお鳴いている蝉。また、ヒグラシなど秋になって鳴く蝉。《季 秋》

あき - た【秋田】
稲の実っている田。

あき - だな【空き店】
人の住んでいない家。また、あいている貸し家。

空(あ)き店(だな)の恵比須(えびす)
だれもいないのに、ひとりで悦に入っていること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あき - つ - かみ【現つ神】
現世に姿を現している神。多くは天皇を敬っていう。現人(あらひと)神。

商(あきな)い三年
商売での利益を上げるまでには 3 年かかる、3 年は辛抱せよということ。

商(あきな)いは牛の涎(よだれ)
商売は、牛のよだれが切れ目なく長く垂れるように、気長く努力せよということ。

商(あきな)いは草の種(たね)
商売には種類が多いということ。

あきない - ぐち【商い口】
① 商品を売り込む所。得意先。「協力して―をふやす」
② 物を商うための巧みな話しぶり。

あきない - みょうり【商い冥利】
神仏の加護によって、商売が繁盛すること。また、その加護。商い冥加。「―に尽きる」

秋(あき)の日(ひ)は釣瓶(つるべ)落(お)とし
秋の日が急に沈むことを、井戸に落とす釣瓶にたとえていう言葉。

あき - びより【秋日和】
秋の、よく晴れて、さわやかな天気。《季 秋》

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あき - ほ【秋穂】
秋の実った稲穂。

あき - みせ【空き店】
人の住んでいない店。また、商品を置いていない店。

あき - め・く【秋めく】
［動カ五（四）］
秋らしくなる。身に秋を感じるようになる。秋づく。「日ごとに―・いてきた」《季 秋》

あき - めくら【明き盲】
① 外見は正常な目と同じであるが、実際は物の見えない目。
② 文字の読めない人。文盲（もんもう）。

あき - やさい【秋野菜】
秋に成熟する野菜。サツマイモ・ナガイモ・ゴボウ・キノコ類など。→春野菜 →夏野菜 →冬野菜

あき - やしき【空き屋敷／明き屋敷】
① 人の住んでいない屋敷。
② 建物の建っていない宅地。

呆（あき）れが宙返りをする
《「あきれかえる」をおどけていったもの》
ひどくあきれる。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

呆(あき)れが礼に来る
ひどくあきれることを誇張した言い方。あきれが宙返りをする。

呆(あき)れもしない
《打消しの語を付けて意味を強めた表現》
ひどくあきれて言いようもない。

商人(あきんど)の空誓文(そらせいもん・からせいもん)
商人の言動は、駆け引きが多くて信用できないことのたとえ。

あぎと・う
［動ハ四］
① 幼児が片言を言う。「おさな子が何かを―・う」
② 魚が水面近くに浮いて、口をぱくぱくする。「鯉が水面で―・う」

あく‐い【悪衣】
粗末な衣服。粗衣。あくえ。「―悪食(あくじき)」

あく‐いんねん【悪因縁】
悪い結果をもたらす因縁。悪因と悪縁。

あくいん‐あっか【悪因悪果】
悪い行為が原因となって悪い結果が生じること。⇔善因善果。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あく‐えき【悪疫】
悪性の流行病。コレラ・ペストなど。「―がはやる」

あく‐えん【悪縁】
① 仏語。よくない縁。悪い結果をもたらす条件。
② 好ましくない人間関係。また、関係を断とうとしても断つことのできない男女の縁など。腐れ縁。

あく‐かんじょう【悪感情】
人に対して抱く不愉快な感情。「―を抱く」

灰汁(あく)が抜・ける
人の性質・趣味・容姿などに嫌みやあくどさがなくなる。さっぱりして洗練されたものになる。あかぬけがする。

あく‐ぎん【悪銀】
多量の銅を混ぜた品質の悪い銀貨。また、偽金(にせがね)。わるがね。

あく‐げん【悪言】
人をあしざまにののしる言葉。悪口(あっこう)。あくごん。「―を吐く」

悪業(あくごう)の猛火(みょうか)
悪事の報いが大きいことを、燃えさかる火にたとえたもの。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あく‐さい【悪才】
悪事をする才能。悪知恵。「―にたける」

悪妻(あくさい)は六十年の不作
悪妻をもつと、夫は一生不幸であるということ。悪妻は百年の不作。

あく‐さつ【悪札】
へたな書き物。自分の手紙をへりくだっていう語。

あく‐しつ【悪疾】
たちが悪くて、治りにくい病気。

あくしつ‐せい【悪質性】
悪質であること。たちが悪いこと。「―の高い交通違反」

あく‐しゅ【悪酒】
品質の劣る酒。味の悪い酒。

あく‐しょ【悪書】
① 内容が俗悪で、読者や社会、特に青少年読者に悪影響を及ぼす本。「―追放」
② 文字を書くのがへたなこと。悪筆。

あくしょ‐おち【悪所落ち】
遊里へ行くこと。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あくしょう - もの【悪性者】
道楽者。浮気者。

あくしょ - おとし【悪所落とし】
馬に乗って険しい坂道を走り降りること。また、それに巧みな人。

あくしょ - がね【悪所金】
遊里などで使う金。遊興費。悪性金(あくしょうがね)。

あくしょ - ぐるい【悪所狂い】
遊里に入りびたって酒色にふけること。

あく - じき【悪食】
［名］(スル)
① 普通には食べない物を食べること。いかものぐい。あくしょく。
② 粗末な物を食べること。
③ 仏教で、禁じられている獣肉を食べること。

悪事(あくじ)千里を走る
《「北夢瑣言(ほくむさげん)」の「好事門を出でず、悪事千里を行く」から》
悪い行いはすぐに世間に知れ渡る。

あく - じょうけん【悪条件】
物事の成功や成立を阻むような条件。「―が重なる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あく - しん【悪心】
恨みを抱き、悪事をしようとするよこしまな心。悪念。悪意。「―が起きる」

あく - じん【悪神】
人に災いや害を与える神。

あく - すい【悪水】
① 飲用・灌漑(かんがい)などに適さない水。
② 汚れた水。汚水。

あく - せい【悪政】
民意に添わない政治。苛政。⇔善政。

あく - せん【悪戦】
［名］(スル)
不利な苦しい戦い。苦戦。「―する」

あく - ぜい【悪税】
不公平が是正されない税。道理に合わないことで、評判の悪い税。

あく - そう【悪相】
① 恐ろしくて気味の悪い顔つき。醜い人相。
② 不吉な兆し。縁起の悪い現象。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あくたれ - ぐち【悪たれ口】
悪たれたものの言い方。憎まれ口。「―をたたく」

あく - た・れる【悪たれる】
［動ラ下一］
理屈に合わないことや反抗的なこと、いやがらせなどを言う。すねた態度をとる。「酔って同僚に―・れる」

あく - たろう【悪太郎】
いたずらな子供をののしっていう語。悪たれ小僧。

あくちも切れぬ
世間知らずの、年少の者をあざけっていう語。「―分際で」

あく - ち【悪血】
病毒を含んだ血。くろち。わるち。あくち。

あく - てん【悪点】
物事を悪く批評すること。

あく - と【悪徒】
わるもの。また、その仲間。悪党。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あく - とく【悪徳】
道義に外れた言行。「―商人」⇔美徳。

あくとくしょうほう【悪徳商法】
高額の利息が付くとか、有利な資格が取れるなどと言って客から金銭をだまし取るやり方。訪問販売や電話販売など方法は多種多様。悪質商法。問題商法。

あく - どう【悪童】
いたずらがはなはだしく、手に負えない子供。

あく - ば【悪罵】
［名］（スル）
口汚くののしること。また、その言葉。「聴衆の面前で―する」

あく - ば【悪婆】
心のよくない老女。意地の悪い老女。

あく - ひつ【悪筆】
へたな字。また、字がへたなこと。「生来の―」

あく - ひょう【悪評】
悪い評判。悪い批評。「―を買う」⇔好評。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

欠伸(あくび)を噛(か)み殺・す
出そうなあくびを、口を閉じて出さないようにがまんする。退屈なことをがまんする場合にいう。

あく‐びょうどう【悪平等】
［名・形動］
何もかも一律に平等に扱うこと。形の上だけ平等にして、かえって不公平になっていること。また、そのさま。「頭割りでは―な仕事だ」

あく‐ふ【悪婦】
性質のよくない女。

あく‐ふう【悪風】
① 悪い風俗や習慣。悪習。悪弊「―に染まる」⇔美風。
② 害をもたらす風。暴風。

あく‐ぶん【悪文】
へたでわかりにくい文章。文脈が混乱して、まとまりのない文章。「あの人は―家だ」

悪夢(あくむ)から覚・める
今まで自覚せずに行ってきた悪いことに気づく。

あく‐ほう【悪報】
① 悪い知らせ。凶報。
② 仏語。悪事に対する報い。⇔善報。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あく‐ろ【悪路】
悪い道路。ひどい道。

胡坐(あぐら)をか・く
① あぐらを組んで座る。
③ のんきにかまえて、何の努力もしないことのたとえ。「名門意識の上に―・く」

あけ‐くれ【明け暮れ】
［名］(スル)
① 夜明けと夕暮れ。朝と晩。
② あることに絶えず専念すること。「勉強に―する」
③ (副詞的に用いて) 明けても暮れても。いつも。しょっちゅう。「―物思いに沈む」

朱(あけ)に染ま・る
血まみれになる。血だらけになる。「彼は―・って倒れていた」

あけ‐はな・れる【明け離れる】
［動ラ下一］あけはな・る［ラ下二］
夜がすっかり明ける。明け渡る。

あけ‐ばん【明け番】
① 当番の勤務を終わること。また、その人。下班。下番(かばん)。
② 宿直などを勤務した翌日の休み。また、それに当たっている人。
② 一晩二交代の勤務で夜半から明け方にかけての勤務。また、それに当たっている人。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あけ - そ・める【明け初める】
［動マ下一］あけそ・む［マ下二］
夜が明け始める。「東の空が―・む」

開(あ)けて悔(くや)しい玉手箱(たまてばこ)
《浦島太郎の伝説から》
期待外れの結果を見て、がっかりすることのたとえ。開けて悔しき浦島の子。

あげ - なべ【揚（げ）鍋】
揚げ物に使う鍋。

上(あ)げたり下げたり
褒めたりけなしたり。「何のかんのと―、人をばかにするな」

あげぜん - すえぜん【上（げ）膳据（え）膳】
自分は座ったままで、食膳を出してもらい、食事がすんだら膳を取り下げてもらうこと。またそのように、すべてのことを他の人にしてもらって、何もしなくてよい境遇。

あけ - のこ・る【明け残る】
［動ラ四］
夜が明けても、月や星が空に残っている。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あけ - ひろ・げる【開け広げる／明け広げる】
［動ガ下一］あけひろ・ぐ［ガ下二］
閉ざされていたものをすっかり開いて広げる。「扉を―・げる」

あこぎ【阿漕】
［名・形動］
《禁漁地である阿漕ヶ浦で、ある漁師がたびたび密漁をして捕らえられたという伝説から》
しつこく、ずうずうしいこと。義理人情に欠けあくどいこと。特に、無慈悲に金品をむさぼること。また、そのさま。「―な商売」「―なまねをする」

あごあし - つき【顎足付（き）】
食事代と交通費を先方が負担すること。「―の接待旅行」

顎(あご)が干上(ひあ)が・る
収入がなくなって、生活ができなくなる。「失業して―・る」

顎(あご)が食い違・う
見込み違いになる。当てがはずれる。

顎(あご)で蠅(はえ)を追・う
ハエを手を使わないであごを動かして追い払う。体力が衰えたさまにいう。

顎(あご)を出・す
ひどく疲れて、足が動かず、あごだけが前に出る。疲れ切ってどうにもならない状態をたとえていう。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

顎(あご)を撫(な)・でる
得意げなようすをいう。

麻(あさ)の中の蓬(よもぎ)
《「荀子」勧学の「蓬麻中に生ずれば扶(たす)けざるも直し」から》
蓬のように曲がりやすいものでも、まっすぐな性質の麻の中に入って育てば曲がらずに伸びる。人は善良な人と交われば自然に感化を受け、だれでも善人になるというたとえ。麻につるる蓬。

あさあさ - し・い【浅浅しい】
［形］あさあさ・し［シク］
あさはかで軽々しい。奥深くない「―・い考え」

あさ - あめ【朝雨】
朝の雨。朝に降りだす雨。

朝雨馬に鞍置け
朝の雨はすぐにあがるから外出の用意をせよ。

朝雨に傘要らず
朝の雨はすぐにあがるから傘の用意は要らない。

朝雨は女の腕捲り
朝の雨はすぐにあがるから、女の腕まくりと同じようにこわくない。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あさ - あらし【朝嵐】
朝吹く強い風。

あさ - かげ【朝影】
① 朝日の光。
② 朝、水や鏡などに映った姿。

あさ - がすみ【朝霞】
朝に立つ霞。《季 春》

あさ - かぜ【朝風】
① 朝吹く風。
② 日の出後、気圧の関係で陸上から海上へ、また、山頂から谷へ吹く風。⇔夕風。

あさ - ぎり【朝霧】
朝方に立つ霧。《季 秋》

あさ - ぐもり【朝曇（り）】
朝方、空が曇ること。

あさ - さむ【朝寒】
晩秋の朝方寒さを感じること。《季 秋》

あさ - ざくら【朝桜】
朝、露を受けて咲いている桜。《季 春》

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あさ - ざけ【朝酒】
朝から酒を飲むこと。また、その酒。「―は門田(かどた)を売っても飲め」

あさ - じめり【朝湿り】
朝、露などのために、物がしっとりとぬれていること。

あさ - しも【朝霜】
朝、降りている霜。朝の霜。《季 冬》

あさ - すずみ【朝涼み】
夏の朝の涼しいころ。あさすず。

浅瀬(あさせ)に仇波(あだなみ)
《古今集・恋四の「底ひなき淵やは騒ぐ山川の浅き瀬にこそあだ波は立て」から》
思慮の浅い者ほど大騒ぎをすることのたとえ。

あさ - ぞら【朝空】
朝方のさわやかな空。

あさ - だ【浅田】
泥の深くない田。⇔深田(ふかだ)。

あさ - づくよ【朝月夜】
① 月が残っている明け方。「―明けまく惜しみ」
② 明け方まで残っている月。有明の月。あさづきよ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あさ - づみ【朝摘み】
その日の朝に摘みとること。「―のイチゴ」

あさ - つゆ【朝露】
朝、降りている露。消えやすいので、古くは、はかないもの、命などにたとえた。《季秋》「―が置く」

あさ - で【朝出】
朝早く出かけること。特別に朝早くから仕事にかかること。はやで。

あさと - で【朝戸出】
朝、戸を開けて外に出ること。朝、外出すること。⇔夜戸出(よとで)

あさ - どり【朝採り】
農作物を朝に収穫し、その日のうちに店頭に並べて売ること。また、そのような農作物。「―野菜」

あさな - あさな【朝な朝な】
［副］
毎朝。朝ごとに。あさなさな。

あさな - ゆうな【朝な夕な】
［副］
朝に夕に。朝晩。いつも。「―愛唱する歌」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あさ - にじ【朝虹】
朝に立つ虹。雨の降る前兆。「―は雨、夕虹は晴れ」《季 夏》

あさね - がみ【朝寝髪】
朝、起きたときの乱れた髪。

麻(あさ)の如(ごと)・し
《麻糸がもつれ乱れているようだ、の意から》
世の中の状態などがひどく乱れているさま。「天下―・く乱れる」

あさ - の - ま【朝の間】
朝のうち。あさま。「―に畑仕事を終わらせる」

あさ - はふ・る【朝羽振る】
［動ラ四］
朝、鳥が羽ばたくように、風や波が激しく立つ。⇔夕羽振る「水面が―・る」

あさ - まいり【朝参り】
朝早く社寺に参ること。「神社に―する」

あさ - まだき【朝まだき】
夜の明けきらないころ。早朝。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あざな・う【糾う】
［動ワ五（ハ四）］
糸をより合わせる。縄をなう。絡ませるようにして交え合わせる。「禍福は―・える縄のごとし」

あさひ - かげ【朝日影】
朝日の光。

あさ - やけ【朝焼け】
日の出のころに東の空が赤く染まって見えること。《季 夏》

あざ - らか【鮮らか】
［形動ナリ］
魚肉などが新鮮なさま。生き生きとしているさま。「―なる青魚」

あし - がかり【足掛（か）り】
① 高い所へ登るとき、足を掛けて助けとする所、また、物。足場。
② 物事をする場合のきっかけ。糸口。「出世の―をつかむ」

足(あし)が早・い
① 食物などが腐りやすい。「鯖(さば)は―・い」
② 商品などの売れ行きがよい。

あし - ごしらえ【足拵え】
歩きやすいように履物などを整えて、身支度をすること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

足(あし)が遠の・く
今までよく行っていた所に行かなくなる。足が遠くなる。「両親が死んでからは、実家へはすっかり―・いた」

足(あし)が・出る
① 予算または収入よりも出費が多くなる。赤字になる。「旅行は運賃値上げ分だけ―出た」
② 隠しごとが現れる。ぼろがでる。

足(あし)が鈍(にぶ)・る
歩く力や走る力が低下する。「年をとって―・った」

足(あし)が向・く
知らず知らずその方へ行く。「なじみの店に―・く」

足(あし)に任・せる
特に目的を決めないで、気の向くままに歩く。また、足の力の続く限り歩く。「―・せて全国各地を旅する」

足(あし)の踏み場もな・い
足を下ろすだけのわずかなすき間もないほど、物が散らかっている。

足(あし)を入・れる
ある場所、ある世界に入る。「芸能界に―・れる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

足(あし)を奪・う
事故などが交通機関を止めて、人の移動を不可能にする。「大雪が市民の―・う」

足(あし)を空(そら)に
足が地につかないほどあわて急ぐさま。「―駆けまわる」

足(あし)を出・す
予算または収入を超える金額を使う。赤字にする。「―・さずに切り盛りする」

足(あし)を抜・く
好ましくない関係を打ち切る。不本意な環境から抜け出す。

足(あし)を延ば・す
いま来ている所より、さらに遠くまで行く。「出張のついでに郷里へ―・す」

足(あし)を棒に・する
くたくたに疲れるまであちこち歩きまわる。あることのために奔走するたとえ。「一日中―して職を探し回る」

足(あし)を限りに
足の続く限り。歩ける限り。「―探し回る」

あし‐ざま【悪し様】
［形動］［ナリ］
相手を実際よりも悪く、また、いかにも悪いものとして扱うさま。「人を―に言う」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あし - ざわり【足触り】
足にふれる感じ。「手触り―」

あし - ざわり【足障り】
歩くのにじゃまになるもの。「崩れた瓦礫が―となる」

朝(あした)には紅顔(こうがん)ありて夕べには白骨(はっこつ)となる
《和漢朗詠集・下の「朝に紅顔あって世路に誇れども、暮(ゆふべ)に白骨となって郊原に朽ちぬ」から》
この世は無常で、人の生死は予測できないことをいう。

朝(あした)に道を聞かば夕べに死すとも可なり
《「論語」里仁(りじん)から》
朝に人としての大切な道を聞いて悟ることができれば、その晩に死んでも心残りはないという意。

朝(あした)に夕べを謀(はか)らず
《「春秋左伝」昭公元年から》
朝にその日の夕方のことを考えないの意から、先のことを考えない、また、考える余裕がないことをいう。朝に夕べを慮(おもんぱか)らず。

あし - だい【足代】
外出のとき乗り物にかかる費用。交通費。「―がかかる」

足駄(あしだ)を履・く
実際の値段より高い値をつけて、差額を稼ぐ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

足駄(あしだ)を履いて首っ丈(たけ)
「くびったけ」を強めた言い方。足駄をはいても首のあたりまで深みにはまる意から》
異性にほれ込んで夢中になること。

あし - ついで【足序で】
外出したついで。「―に図書館へ本を借りに行く」

あし - ならし【足馴らし】
① 歩く、または走るために前もってする練習。足固め。
② うまくできるかどうか、試しにしてみること。準備活動。下準備。「本格操業の―」

あし - びょうし【足拍子】
足を踏んでとる拍子。能楽・舞踊・文楽などでは、足の裏全体で床を強く踏んで音を立てる。リズム感や型のきまりの効果を強調するもの。

足元(あしもと)に付(つ)け込(こ)・む
相手の弱点を見抜いて、それを利用する。弱みに乗じる。「人の―・んで金を巻き上げる」

あし - まかせ【足任せ】
① 行く先を前もって決めないで、気の向くままに歩くこと。「旅は気任せ―」
② 足の力の続くかぎり歩くこと。あししだい。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あし - まとい【足纏い】
［名・形動］
足に物がからみついて自由に動けないこと。また、そのさま。転じて、邪魔になる物事や人。

あし - まめ【足忠実】
［名・形動］
めんどうがらないで、気軽に出歩くこと。また、そのさまや、そういう人。「―にどこへでも行く」

あし - まわり【足回り】
① 足のまわり。足もと。また、足ごしらえ。
② 自動車などで、車輪を支持する装置。「―を点検する」

足元(あしもと)から鳥が立・つ
① 身近な所で意外なことが起こる。
② 急に思いたってあわただしく物事を始める。「―・つように帰って行った」

足元(あしもと)に火がつ・く
危険が身辺に迫っていることをいう。「経営不振で―・く」

足元(あしもと)の明るい中(うち)
《日が暮れて足元が見えなくならないうち、の意から》
自分が不利な状態にならないうち。「―に手を引きなさい」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あし - よわ【足弱】
［名・形動］
足が丈夫でないこと。歩く力の弱いこと。また、そのさま。「―な子供連れには歩くのは無理な距離だ」

足(あし)を擂(す)り粉木(こぎ)にする
足がすりこぎのようにすりへるまで歩きまわる。

あじ - きき【味聞き】
酒などの味のよしあしを試すこと。また、その人。

味(あじ)な事をや・る
気のきいたことをする。

味(あじ)も素(そ)っ気(け)もな・い
無味乾燥で趣や潤いに欠けるさま。「―・い説明」

あじ - きき【味聞き】
酒などの味のよしあしを試すこと。また、その人。

明日(あす)の事を言えば鬼が笑う
未来のことは前もって知ることはできないというたとえ。気の早いことを言うな、とからかいの気持ちを含めていう。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あ - せい【亜聖】
《「亜」は次ぐ意》
① 聖人に次ぐりっぱな人。大賢人。
②《聖人とされる孔子に次ぐ人として》孟子(もうし)または顔回(がんかい)をいう。

汗(あせ)にな・る
① 働いたり動き回ったりして汗を流す。「日夜―・って動き回る」
② 汗の出るほど、恥ずかしさ、恐ろしさを感じる。

あせ - みずく【汗水漬く】
［名・形動］
からだじゅうが汗でびっしょりになること。また、そのさま。汗みどろ。「―になって走る」

汗水(あせみず)を流・す
労苦をいとわず一生懸命に働く。

汗(あせ)を入・れる
ひと休みして汗の出るのを抑える。また、ひと休みして汗をふく。

あそび - がね【遊び金】
有効な使い道がないため、むだにしまっておく金。寝かしてある金。

あそび - がみ【遊び紙】
書物の巻頭・巻末の見返し紙と本文との間に入れる白紙。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あそび - ぐさ【遊び種】
遊びの材料。また、遊び相手。「暇つぶしの―を探す」

あそび - ぐせ【遊び癖】
仕事や勉強を怠ける習慣。また、遊興にふけりやすい癖。「―がつく」

あそび - くら・す【遊び暮（ら）す】
［動サ五（四）］
一日じゅう遊んで過ごす。また、毎日を遊んで過ごす。

あそび - ことば【遊び言葉】
話しはじめや話のつなぎとしてさしはさむ、内容には直接関係のない言葉。「あのう」「ええと」の類。

あそび - たべ【遊び食べ】
乳幼児が食事中に食べ物や食器などで遊ぶこと。離乳食をとり始めるなどして、食事行為に興味をもつ年齢に多く見られる。

あそび - たわむ・れる【遊び戯れる】
［動ラ下一］あそびたはむ・る［ラ下二］
おもしろそうに遊ぶ。遊び興じる。「子犬と―・れる」

あそび - て【遊び手】
遊び好きな人。遊び上手な人。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あたま - から【頭から】
［副］
① ためらうことなく。はじめから。いきなり。「―文句を言う」
② 全く。まるで。「―信用しない」「―嫌う」

頭(あたま)から水を浴びたよう
突然の出来事に、驚き恐れてぞっとするさま。

頭(あたま)から湯気(ゆげ)を立・てる
かんかんになる。非常に怒るようすをいう。

頭(あたま)が低・い
他人に対して、謙虚で、ていねいである。腰が低い。「社長になっても―・い」

頭(あたま)が古(ふる)・い
考え方が古臭い。

あたま - ごし【頭越し】
① 人の頭上を越して何かの動作をすること。「前の人の―に切符を渡す」
② 間に立つものをさしおいて、直接働きかけること。「―に交渉が行われる

頭(あたま)剃(そ)るより心を剃れ
頭を剃って形だけ僧になっても、心が伴わなければだめだ。形式よりも精神が大事だということ。かしら剃るより心を剃れ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

頭(あたま)の黒い鼠(ねずみ)
食物などをかすめ取る身近な人をネズミにたとえた語。

頭(あたま)の中が白くな・る
あたまの中が空白になる。何も考えられなくなる。「ショックで―・る」

頭(あたま)の天辺(てっぺん)から足の爪先(つまさき)まで
からだの最上部から最下部まで。からだ全部。「にわか雨で―ずぶぬれになる」

あたま‐の‐もの【頭の物】
女性の髪を飾るもの。櫛(くし)やかんざしなどの。

頭(あたま)でっかち尻(しり)すぼり
はじめが大きく、終わりは小さいこと。はじめは勢いがよく、終わりがだらしないこと。竜頭蛇尾。頭でっかち尻つぼみ。

頭(あたま)を上(あ)・げる
他の者を抑えて勢力を伸ばす。頭角を現す。台頭する。「新人候補が―・げてきた」

頭(あたま)を痛・める
ある事を考えて、いろいろと心配したり悩んだりする。「子供の進学問題に―・める」

頭(あたま)を搾(しぼ)・る
できる限り頭を働かせて考える。知恵をしぼる。「新商品のネーミングに―・る」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

頭(あたま)を悩ま・す
あれこれ考えて苦しむ。思い悩む。「人間関係に―・す」

頭(あたま)を撥(は)・ねる
人の取り分の一部を自分のものにする。ピンはねする。「日当の―・ねる

頭(あたま)を擡(もた)・げる
① 隠れていたこと、押さえていたことが、考えや思いに浮かぶ。「ふとした疑念が―・げる」
② 少しずつ勢力を得て現れてくる。台頭する。「急進派が―・げる」

あたま‐かぶ【頭株】
人の上に立って中心となる人物。かしらぶん。

アタラクシア【(ギリシャ)ataraxia】
哲学で、心の平静・不動の状態。ヘレニズム時代の人生観。エピクロスはこの境地の実現が哲学の目標であると説いた。

新(あたら)しい酒を古い革袋(かわぶくろ)に入れる
《新約聖書「マタイによる福音書」第9章から》
新しい内容を古い形式に盛り込む。内容も形式もともに生きないことにいう。

あたらしがり‐や【新しがり屋】
ことさらに流行を追い、最新のものを良しとする人。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あたらしもの - ずき【新し物好き】
目新しいものや新奇なものを好むこと。また、その人。

当(あ)たらず触(さわ)らず
差し障りがないように気をつけて何かをするさま。「―の回答」

当(あ)たらずと雖(いえど)も遠(とお)からず
《「礼記」大学から》
ぴったり当たっていなくても、それほど見当が外れてはいないようす。
[補説]「当たらずとも遠からず」とするのは誤り。

あたら - もの【可惜物】
惜しむべきもの。惜しいこと。あったらもの。

あたり - きんじょ【辺り近所】
そこに近い所。辺り近辺。「―の嫌われ者」

あたり - び【当たり日】
何かが起こるその日。その事に出くわす日。

あたり - もの【当（た）り物】
① 思いどおりになったもの。成功した催しなどをいう。
②（「中り物」とも書く）食べて中毒を起こしたもの。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

当(あ)たりを付(つ)・ける
見当を付ける。「―・てから取り組む」

当(あ)たりを取・る
① 興業・商売などで、企画したことが好評を得て成功する。「人情喜劇で―・る」
② およその見当をつける。

辺(あた)りを払・う
① 他の者を近くに寄せつけない。「―・って密談する」
② そばに寄りつけないほど堂々としている。また、威勢がある。「―・う威容」

あたり‐げい【当（た）り芸】
その俳優が演じると、いつも好評を博する芸。「その当時は、ゲッツは―であった」

当(あ)たるも八卦(はっけ)当たらぬも八卦
占いは当たる場合もあれば、当たらない場合もあるということ。

当(あ)たるを幸い
手に当たるのを幸いに。手当たりしだいに。「―なぎ倒す」

あ‐だ【婀娜】
［形動］［ナリ］
① 女性の色っぽくなまめかしいさま。「―な年増(としま)」
② 美しくたおやかなさま。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あだ - おろそか【徒疎か】
［形動］［ナリ］
（多く「あだおろそかに」の形で、あとに否定の語を伴って用いる）
軽々しく粗末にするさま。いいかげん。あだやおろそか。「親の恩を―にはできない」

あだ - ざくら【徒桜】
散りやすい桜の花。はかないもののたとえ。

あだっ - ぽ・い【婀娜っぽい】
［形］
女性の容姿や身のこなしが、なまめかしく、美しい。色っぽい。「―・い浴衣姿」

あだ - め・く【婀娜めく】
［動カ五（四）］
女がなまめかしく色っぽく見える。色めいた感じを与える。「―・いた目つき」

仇（あだ）は情け
ひどい仕打ちが励みとなって、かえってよい結果になること。

あだ - やか【婀娜やか】
［形動］［ナリ］
（女性の）美しく色っぽいさま。あでやか。「―な笑顔」

仇（あだ）を恩で報（むく）・いる
恨むべき人に対して、かえって情けをかける。⇔恩を仇で返す。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

仇(あだ)をな・す
① 恨みに思う。かたきとみる。
② 仕返しをする。また、害を及ぼす。

あだ - おろそか【徒疎か】
［形動］［ナリ］
（多く「あだおろそかに」の形で、あとに否定の語を伴って用いる）
軽々しく粗末にするさま。いいかげん。あだやおろそか。「親の恩を―にはできない」

あだ - ばな【徒花】
① 咲いても実を結ばずに散る花。転じて、実(じつ)を伴わない物事。むだ花。「―を咲かす」「―に終わる」
② 季節はずれに咲く花。
③ はかなく散る桜花。あだざくら。

あだ - ぶし【徒臥し】
① 独り寂しく寝ること。「そま人のまきの仮屋の―におとするものはあられなりけり」
② その場かぎりの男女の交わり。あだまくら。

彼方(あちら)立てれば此方(こちら)が立たぬ
一方によいようにすれば他方には悪く、両方によいことが同時にできないさまをいう。

あだ - や【徒矢】
的に命中しない矢。むだ矢。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

熱(あつ)いものが込(こ)み上(あ)・げる
感動して、涙があふれ出そうになる。「旧友と再会して、―・げる」

あっ‐かい【圧壊】
［名］(スル)
力を加えてこわすこと。また、力が加わってこわれること。「―試験」「コンクリートが―する」

あっ‐かん【悪漢】
悪事を働く男。わるもの。

あっ‐くつ【圧屈】
［名］(スル)
力ずくで従わせること。「武力で隣国を―する」

あっ‐けい【悪計】
邪悪な計略。奸計(かんけい)。わるだくみ。「―をめぐらす」

あっ‐こん【圧痕】
押されたり、圧力を加えられたりしたときにできる跡。

あっ‐さい【圧砕】
［名］(スル)
おしつけて砕くこと。「殻を―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あっ - さく【圧搾】
［名］（スル）
① 強くおしつけてしぼること。「大豆を―する」
② 強い圧力を加えて、物質の密度を大にすること。圧縮。

暑（あつ）さ忘れて陰（かげ）忘る
暑さが去るとともに木陰のありがたみを忘れる。苦しいときに人から受けた恩も楽になるとすぐ忘れてしまうことのたとえ。

あっ - し【遏止】
［名］（スル）
さえぎり止めること。押しとどめること。「洪水を―する」

あっ - しゅつ【圧出】
［名］（スル）
力を加えて押し出すこと。「ウォーターカッターは高圧で水を―する」

あっ - せい【圧制】
［名・形動］
権力などを使って、他の者の言動を押さえつけたり、人に強制したりすること。また、そのさま。「権力者の―と闘う」

あっ - せつ【圧雪】
［名］（スル）
雪を踏みつぶして固めること。踏んで固めた状態の雪。「ゲレンデの―作業車」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あっ - ちゃく【圧着】
［名］（スル）
強く押しつけて、接着すること。「金箔（きんぱく）を―する」「―ペンチ」

あつ - づくり【厚作り／厚造り】
分厚く切った刺身。⇔薄作り。「マグロの―」

あつ - にゅう【圧入】
［名］（スル）
強い圧力を加えて物を押し込むこと。「容器に原料を―する」

あつ - び【熱火】
盛んに燃えている火。烈火。

熱火（あつび）子（こ）に払う
火に焼かれそうなときは、最愛のわが子の方へ火を払ってでも逃れようとする。危急の際には極端な利己心が現れるたとえ。

あっ - ぷく【圧伏／圧服】
［名］（スル）
力で押さえつけて服従させること。「妖魔を―する」

あつ - ゆ【熱湯】
普通よりも熱めにわかした風呂。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

熱(あつ)いものが込(こ)み上(あ)・げる
感動して、涙があふれ出そうになる。「旧友と再会して、―・げる」

暑(あつ)さ忘れて陰(かげ)忘る
暑さが去るとともに木陰のありがたみを忘れる。苦しいときに人から受けた恩も楽になるとすぐ忘れてしまうことのたとえ。

羹(あつもの)に懲(こ)りて膾(なます)を吹く
《「楚辞」9章から》
熱い吸い物を飲んでやけどをしたのにこりて、冷たいなますも吹いてさますという意。前の失敗にこりて必要以上の用心をすることのたとえ。

あつ‐やき【厚焼（き）】
卵焼き・煎餅(せんべい)などを、厚く焼くこと。また、そのもの。

あつらえ‐もの【誂え物】
注文して作らせた物。

あて‐うま【当て馬】
① 牝馬(ひんば)に発情を促したり、発情の有無を調べたりするための牡馬(ぼば)。
② 相手の反応やようすを探るために、仮の者を表面に出してみること。また、その者。「―の候補を立てる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あて - こす・る【当て擦る】
［動ラ五（四）］
他の事にかこつけて、それとなくわかるように悪口や皮肉を言う。あてつける。「笑い話にかこつけて、人の失敗を―・る」

当(あ)て事(こと)も無・い
《予想外だ、の意から》
とんでもない。途方もない。「―・い邪推」

あて - こ・む【当て込む】
［動マ五（四）］
よい結果を期待して行動する。当てにする。「ボーナスを―・んで背広を新調する」

あて - ずいりょう【当て推量】
確かな根拠もなく事実を推しはかること。憶測。あてずっぽう。

あて - のみ【当て飲み】
他人の懐を当てにして酒を飲むこと。「どうせ今日も―する気だろう」

あてつけ - がまし・い【当て付けがましい】
［形］あてつけがま・し［シク］
あてつけるような態度が露骨に表れているさま。「相席の人が―・くタバコの煙をはらった」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あて - つ・ける【当て付ける】
［動カ下一］あてつ・く［カ下二］
① 他にかこつけて相手の悪口や皮肉などを言う。また、皮肉な態度をとる。あてこする。「兄に―・けて弟をほめる」
② 仲のよさを見せつける。「新婚の夫婦に目の前で―・けられる」
③ 割り当てる。あてがう。

あで - すがた【艶姿】
女性の色っぽく美しい姿。

あで - やか【艶やか】
［形動］［ナリ］
《「あて（貴）やか」の音変化》
女性の容姿がなまめかしいさま。美しくて華やかなさま。「―にほほえむ」「―な衣装」

後足（あとあし）で砂をか・ける
恩義のある人を裏切るばかりか、去りぎわにさらに迷惑をかけることのたとえ。

後（あと）から後（あと）から
ある事柄が次々と続いて起こるようす。「―問題が発生する」

跡（あと）を弔（とむら）・う
何らかの因縁のある人の死後の供養をする。「後を弔う」とも書く。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あと - がえり【後覆り】
後ろ向きに空中転回すること。とんぼがえり。

あと - ぐすり【後薬】
《病人が死んだあとの薬の意から》
物事がすんでから処置しても意味のないことのたとえ。

あと - こうしゃく【後講釈】
結果がわかってから、もっともらしく説明を加えること。「―など誰でも言える」

後先(あとさき)無し
自分の行動とその結果についての思慮がない。「―に予算を使う」

後先(あとさき)見ず
前後の事情を考えず無分別に振る舞うようす。「―の行動」「―に突進する」

後先(あとさき)にな・る
① 後になったり、先になったりする。
② 後のものが先になり、先のものが後になる。順序が逆になる。「話が―・る」

あと - だのみ【後頼み】
後の事を依頼すること。また、将来に望みを託すこと。

あと - ぢえ【後知恵】
物事が終わってしまってから出てくる知恵。「下種(げす)の―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あと‐づ・ける【跡付ける】
［動カ下一］
物事の移り変わっていった跡をたどって調べる。証拠づける。「街道の変遷を―・ける」

後腹(あとばら)が病・める
事がすんだあとに、出費がかさんだり、障害が生じたりして苦しむ。

あと‐ひき【後引き】
飽きることなく、次々に物を欲しがること。多く酒についていう。

あと‐びき【後引き】
酒などをつぐとき、銚子(ちょうし)の口を伝って滴ること。また、その滴り。

あとひき‐じょうご【後引き上戸】
飲みはじめると、際限なく酒を欲しがる癖のある人。

後棒(あとぼう)を担(かつ)・ぐ
首謀者の手助けとして加わる。

後枕(あとまくら)も知らず
物の前後がわからない。どうしてよいかわからない。後枕も覚えず。

あどを打・つ
相手の話に調子を合わせて受け答えする。あどうつ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

跡(あと)を絶・つ
ある事がすっかり起こらなくなる。絶えてしまう。
「その種の事故は―・った」「訪れる人が―・たない」

跡(あと)を暗(くら)ま・す
逃げた先がわからないようにする。行方をくらます。「忽然(こつぜん)と―・す」

アドバルーンを揚(あ)・げる
計画などを事前にもらして、世間の反響をみる。

穴(あな)のあくほど
じっと見つめるようすをいう。「一見つめる」

穴(あな)をあ・ける
① 金を使い込む。欠損を生じさせる。「家計に―・ける」
② 事故などで事の進行に支障をきたし、空白をつくる。「舞台に―・ける」「文集のページに―・ける」

穴(あな)を穿(うが)・つ
人の知らない重要な点や欠陥を、裏面からとらえたり指摘したりする。

アナクロ
①「アナクロニズム」の略。
② 時代に遅れたり逆行していたりするさま。「―な思想」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

アナグラム【anagram】
つづり字の位置を変えて、別の語句をつくること。また、その遊び。「evil（悪)」が「live（生きる)」になるなど。字なぞ遊び。

あな - つぎ【穴継ぎ】
衣服などにできた穴に布を当ててつくろうこと。

あな - づり【穴釣（り)】
① 穴の中にえさをつけた釣り針を差し入れ、ひそんでいるウナギを釣ること。
② 湖面の氷に穴をあけ、ワカサギを釣ること。

あな - ねらい【穴狙い】
競馬・競輪などで、番狂わせによる高い配当金をねらって賭けること。

豈(あに)図(はか)らんや
（多く文末を「とは」で結ぶ)
全く思いがけないことが起こったという気持ちを表す。意外にも。「―彼が犯人であったとは」

彼(あ)の世(よ)千日(せんにち)此(こ)の世一日(いちにち)
死後の千日の楽しみよりも、この世の一日を楽しむほうがいい。

あ - ふ【阿付】
へつらい付き従うこと。「―迎合」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あぶら - あせ【脂汗】
じっとりとにじみ出る汗。特に、緊張しているとき、苦しいときなどに出る汗。「―を流す」

油(あぶら)が切・れる
活動の原動力がなくなる。「―・れて元気が出ない」

あぶら - どおし【油通し】
［名］(スル)
食材を熱した油にさっとくぐらせること。「牛肉を―する」

油(あぶら)を流したよう
海・湖などの水面が、波が立たず穏やかなさま。

油(あぶら)が切・れる
活動の原動力がなくなる。「―・れて元気が出ない」

油(あぶら)を絞(しぼ)・る
① 過ちや失敗を厳しく責める。「さんざん―・られた」
② ひどい苦労をする。「親が身の―・って貯めたお金」

油紙(あぶらがみ)へ火(ひ)が付(つ)いたよう
ぺらぺらよくしゃべるさま。油に火がついたよう。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あぶら - ぐち【油口】
滑りのよいよくしゃべる口。巧みな口先。「政治家のような―」

あぶら - こし【油漉し】
揚げ物をしたあとの油をこしてかすをとる、金網つきの道具。

あぶら - ざら【油皿】
行灯(あんどん)などで、灯火用の油を入れる小さい皿。灯蓋(とうがい)。油坏(あぶらつき)。

あぶら - でり【油照り】
風がなく、薄日がじりじりと照りつけて、じっとしていても汗のにじみ出るような天気。《季 夏》

あぶら - なぎ【油凪】
海面が、油を流したように波が立たない状態。べたなぎ。

あぶら - はね【油跳ね】
油がはねて周囲にとび散ること。特に、料理で、水分の多い材料を揚げるときに油が勢いよくとび散ること。

あぶら - び【油火】
油に灯心を浸してともす火。ともしび。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あぶら - ぶとり【脂太り】
からだの脂肪分が多くなって肥え太ること。また、そのような人。脂肪太り。

あぶら - やけ【油焼け】
［名］（スル）
魚類の干物などが古くなったりして脂肪分が酸化し、赤茶けて味が悪くなること。

あぶり - もの【焙り物】
火であぶったもの。特に、焼き魚。やきもの。

あふれ - び【溢れ火】
ガスこんろに置いたやかんや鍋の側面から火がはみでた状態。また、その火。

阿呆（あほう）の足下使（あしもとづか）い
愚かな者は足下の物を取るのにも人を使うということ。つまらないことに、いちいち人を使う愚かさをいう。

阿呆（あほう）の三杯汁（さんばいじる）
汁のお代わりを 3 杯もするのは作法を知らないばか者であるということ。また、ばか者にかぎって大食をすることのたとえ。

阿呆（あほう）の話食（はなしぐ）い
愚か者は人の話を聞くと、自分の力量も考えずに、すぐ実行しようとすること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あほう - づら【阿呆面】
間の抜けた、愚かな顔つき。馬鹿面。

甘(あま)い汁(しる)を吸・う
他人を利用して、自分は苦労せずに利益を得る。「幹部連中が―・う」

あま - うけ【雨承け】
雨垂れを受けるもの。雨樋(あまどい)など。あめうけ。

あまおち - いし【雨落ち石】
雨垂れで地面がくぼむのを防ぐため、軒下に置き並べた石。雨垂れ石。

あま - おさえ【雨押（さ）え】
壁と庇(ひさし)、屋根と煙突との間などに取り付けて、雨の浸入を防ぐ板。

あま - がいとう【雨外套】
雨天用の防水外套。レインコート。

あま - ぎ【雨着】
衣服の上に着て雨を防ぐもの。

あま - ぎり【雨霧】
小雨のような霧。また、霧のように細かい小雨。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あま - け【甘気】
甘い程度。甘み。甘さ。

あま - け【雨気】
雨の降りそうな気配。雨模様。雨景色。「―がただよう」

あま - げしき【雨景色】
① 雨の降っている風景。
② 雨の降りそうな気配。雨模様。

あま - じ【天路／天道】
① 天上にあるという道。また、天へ昇って行く道。「山頂に―あり」
② 仏教でいう六道の一。天上にあるとされる世界。天上界。また、天上界へ通じる道。

あま - じまい【雨仕舞（い）】
雨水が建物内部に入らないようにすること。また、その施工方法。

あま - じたく【雨支度】
外出の際、雨にぬれないよう雨具を調えること。また、その雨具。

あま - じみ【雨染み】
雨水で濡れたあとにつく汚れ。あめじみ。「車の―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

雨垂(あまだ)れ石(いし)を穿(うが)つ
《「漢書」枚乗伝から》
小さな努力でも根気よく続けてやれば、最後には成功する。点滴石を穿つ。

あまだれ‐びょうし〔‐ビヤウシ〕【雨垂れ拍子】
① 雅楽や謡曲で、拍子を雨垂れのように一定の間隔でとること。
② 物事の進行がとぎれがちで、はかどらないこと。「仕事が―になる」

あま‐つ‐かぜ【天つ風】
大空を吹く風。「―雲の通ひ路吹き閉ぢよをとめの姿しばしとどめむ」

あま‐て・る【天照る】
［動ラ四］
空に光る。天に輝く。「夜に―・る満月」

あま‐と・ぶ【天飛ぶ】
［動バ四］
大空を飛ぶ。「―・ぶ雲」

あま‐はけ【雨捌け】
雨水がたまったり詰まったりせずに流れること。「―がよい」

あま‐ぶた【雨蓋】
① 雨よけのために設ける覆い。塀の笠木(かさぎ)の類。
② 洋服のポケットの口を覆う垂れ蓋。フラップ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あま - やか【甘やか】
［形動］［ナリ］
甘い感じのするさま。「―な声」

あま - やみ【雨止み】
① 雨が降りやむこと。「一人の下人が、羅生門の下で―を待っていた」
② 雨のやむのを待つこと。雨宿り。「軒下で―する」

あまよ - の - つき【雨夜の月】
雨雲に隠れた月。想像するだけで目には見えないもののたとえ。

あまよ - の - ほし【雨夜の星】
雨雲に隠れた星。あっても見えないもの、めったにないもののたとえ。

あまり - ちゃ【余り茶】
茶筒に使い残した茶。また、茶碗に飲み残した茶。「―を捨てる」

余(あま)りと言えば
程度がひどいさま。常識を超えてひどく。あまりにも。「―厳しい仕打ち」

あみいり - ガラス【網入（り）ガラス】
金網を中に入れて作ったガラス。比較的割れにくく、また割れても破片が飛ばない。

あみ - じゃくし【網杓子】
細かい金網でできた杓子。てんぷらの揚げかすなどをすくうのに用いる。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

網(あみ)無くて淵(ふち)をのぞくな
《「淮南子(えなんじ)」説林訓から》
網の用意がなくては、淵をのぞいても魚はとれない。十分な努力や用意なしには成功はおぼつかないことをいう。網持たずに海をのぞくな。

編(あ)み笠(がさ)一蓋(いっかい)
編み笠一つのほか何も持たないこと。身軽なこと、また無一物の身の上のたとえ。

阿弥陀(あみだ)の光(ひかり)も金次第(かねしだい)
《「阿弥陀の光」は、阿弥陀如来のありがたい御利益(ごりやく)》
仏様の御利益も賽銭(さいせん)の多寡で決まるの意で、金の威光の大きさをいう。地獄の沙汰も金次第。阿弥陀も銭ほど光る。

網(あみ)の目(め)に風とまらず
網を張っても風を防ぐことはできない。むだなことのたとえ。蜘蛛(くも)の網に風たまらず。

網(あみ)の目(め)を潜(くぐ)・る
① 張り巡らされた捜査網からうまく逃れる。「―・って海外へ逃亡する」
② 法律・規則の盲点をついて悪事をはたらく。違法行為とならない方法であくどいことを行う。

あみ - ば【網場】
魚や鳥をとるために網を仕掛ける場所。また、網を干す場所。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

網(あみ)を張・る
① 魚・鳥などを捕るために網を仕掛ける。
② 犯人を捕らえたり、目的の人物をつかまえたりするために、手配をして待ち構える。「立ち回り先に―・る」「報道陣が―・る」

あめ - あと【雨跡】
① 雨が降った跡。
② 雨垂れで岩石面などにできたくぼみ。

雨(あめ)車軸(しゃじく)の如(ごと)し
雨脚を車軸に見立てて、大粒の雨が激しく降るさまをいう。→車軸を流す

雨(あめ)に沐(かみあら)い風に櫛(くしけず)る
《「荘子」天下の「甚雨(じんう)に沐い、疾風に櫛り、万国を置(た)てたり」から》
雨や風に身をさらす意で、苦労することのたとえ。櫛風沐雨(しっぷうもくう)。

雨(あめ)につけ風につけ
雨が降っても風が吹いても。どんな時でも。

雨(あめ)に濡(ぬ)れて露(つゆ)恐ろしからず
大難に出あった者は小難を恐れないことをいうたとえ。

雨(あめ)の降(ふ)る日(ひ)は天気(てんき)が悪(わる)い
ごく当たり前であること、当然であることのたとえ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

雨(あめ)晴れて笠(かさ)を忘る
苦難のときに受けた恩を、その時が過ぎると忘れてしまうことのたとえ。

飴(あめ)をしゃぶら◦せる
大きな利を得るために、相手に小利を与える。また、人の喜びそうなことを言って相手を乗り気にさせる。飴をねぶらせる。「係員に―◦せて便宜を図ってもらう」

雨(あめ)が降ろうが槍(やり)が降ろうが
どんな困難があってもやりとげるという強い決意のたとえ。石にかじりついても。

あや - いと【綾糸】
① 綾取り遊びに使う糸。
② 美しいいろどりの糸。

あやかり - しょうひん【肖り商品】
有名人・キャラクター・名所や、話題となっている出来事に関連した商品。

あや - ぎれ【文切れ／紋切れ】
発音などがはっきりしていること。歯切れがよいこと。

過(あやま)ちを文(かざ)る
《「論語」子張の「小人の過つや、必ず文る」から》
過ちを改めず、とりつくろって、よいように見せかける。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あや - ど・る【綾取る／操る】
［動ラ五（四）］
① 美しく飾る。特に、文章に修飾を施す。「華麗に―・られた文体」
② たすきなどを斜め十文字に結ぶ。

あや - な・す【綾なす】
［動サ五（四）］
① さまざまの美しいいろどりを示す。美しい模様をつくる。「錦（にしき）―・す木々」
②（「操す」と書く）巧みに扱う。あやつる。

あや - にしき【綾錦】
① 綾と錦。
② 美しい衣服や紅葉などをたとえていう語。「―をまとった秋の山々」

過（あやま）ちて改（あらた）めざる是（これ）を過（あやま）ちという
《「論語」衛霊公から》
過ちはだれでも犯すが、本当の過ちは、過ちと知っていながら悔い改めないことである。

過（あやま）ちては改（あらた）むるに憚（はばか）ること勿（なか）れ
《「論語」学而から》
過ちを犯したら、ためらわないで改めよ。

過（あやま）ちを観（み）て斯（ここ）に仁（じん）を知る
《「論語」里仁から》
人の犯した過失の種類や傾向をよく観察すると、その人の人徳の程度がわかる。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

文目(あやめ)も分(わ)か◦ず
① 暗くて物の模様や区別がはっきりしないさま。「―◦ぬ暗の夜なれば、ここを何処としるよしなけれど」
② 物事の分別がつかないさま。「あらはれていとど浅くも見ゆるかな―◦ず泣かれける音(ね)の」

あや・める【危める】
［動マ下一］あや・む［マ下二］
① 危害を加える。「脅すだけで―・める気はなかった」
②（「殺める」とも書く）殺す。「我が子を―・める大罪を犯す」

あ‐ゆ【阿諛】
［名］(スル)
顔色を見て、相手の気に入るようにふるまうこと。追従(ついしょう)。「―迎合」

あゆついしょう【阿諛追従】
［名］(スル)
相手に気に入られようとして、大いに媚(こ)びへつらうこと。「上役に―する」

あらい‐だ・す【洗い出す】
［動サ五（四)］
① 洗って、余分な土や汚れを取り去り、模様などが現れるようにする。「土器の文様を―・す」
② 詳しく調べあげて、事実を明らかにする。「問題点を―・す」「容疑者の行動を―・す」
③ 洗い始める。「母に言われて娘が皿を―・す」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あらい - おけ【洗い桶】
食器などを洗うための容器。また、浴室でからだを洗う湯を入れる容器。

あら - いし【荒石】
掘り出したり切り出したりしたままで、加工していない石。野面石(のづらいし)。

あらいそ - なみ【荒磯波】
荒磯に打ち寄せる波。ありそなみ。

あら - いた【粗板】
かんなをかけていない板。

あらい - ざらし【洗い晒し】
何度も洗ったため、衣類などの染色が薄れて、白っぽくなること。また、その衣類。
「—のジーパン」

あら - うみ【荒海】
波が立って荒れている海。

あら - おこし【粗起（こ）し／荒起（こ）し】
稲作の準備として、田を大まかに掘り起こすこと。

あら - かわ【粗皮】
① 樹木や米穀類、竹の子などの表皮。
② 獣類の皮で、まだなめしていないもの。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

荒肝(あらぎも)を抜・く
相手を非常に驚かす。びっくりさせ恐れさせる。度胆(どぎも)を抜く。荒肝を拉(ひし)ぐ。

あら‐ぎり【粗切り／荒切り】
① 先頭の兵士が敵を切りたてながら進むこと。
② 戦陣で、先頭の兵士が敵を切りたてながら進むこと。

あら‐ごなし【荒ごなし／粗ごなし】
［名］(スル)
① 細かい粉にする前に、まず粗めに砕くこと。
② 本格的に取りかかる前に、おおまかに処理しておくこと。「審議前に問題点を―しておく」

あら‐がみ【荒神】
霊験のあらたかな神。

荒肝(あらぎも)を抜・く
相手を非常に驚かす。びっくりさせ恐れさせる。度胆(どぎも)を抜く。荒肝を拉(ひし)ぐ

あらけ‐な・い【荒気ない】
［形］あらけな・し［ク］
《「ない」は意味を強める接尾語》ひどく荒々しい。粗暴である。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あら◦しめる【有らしめる】
［連語］
あるようにさせる。存在を示すようにさせる。「不屈の努力が彼の今日を―◦しめた」

あら‐すいぎょう【荒水行】
修行者が寒中に水を浴びてする、激しい修行。

あらず‐もがな
［連語］
《「もがな」は願望の終助詞》
むしろ、ないほうがよい。なくもがな。「―の発言」

争(あらそ)い果ててのちぎり木
《けんかが終わったあとになってそれに用いる棒を持ってくる意から》
時機に遅れて役立たないことのたとえ。

あら‐た【荒田】
長い間耕されないので荒れている田。あれた。

新(あら)たに沐(もく)する者は必ず冠(かんむり)を弾(はじ)く
《「楚辞」漁父から》
髪を洗ったばかりの人は、ちりを払ってから冠をかぶるという意から、潔白な人ほど汚れたものを避けることをいう。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あら - たま【粗玉／新玉／荒玉／璞】
① 掘り出したままで、まだ磨いていない玉。
③ その真価や完成された姿をまだ発揮していないが、素質のある人。

あらた - よ【新た代／新た世】
新しく変わった世。新時代。

あらた - よ【新た夜】
《1 日 1 日と新しく変わっていく夜の意から》
夜ごと夜ごと。毎夜。

あら - づくり【粗造り】
念入りにでなく、ざっとつくること。仕上げ前の段階として、大まかにつくること。
また、そのもの。「―の小屋」

あら - づもり【粗積（も）り】
だいたいの見積もり。あらましの見当。概算。

あら - に【荒荷】
木材・石材・石炭・鉄材・砂など、資材として用いる重量のある貨物。

あらまし - ごと【あらまし事】
前もって、こうなるだろうと推測されること。将来の予想、または計画や希望。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あらぬ - こと【有らぬ事】
［連語］
① 思いもよらないこと。「―を口走る」
② あってはならないこと。よからぬこと。「―を想像する」

あらぬ - よ【有らぬ世】
［連語］
この世と全く違った世界。別世界。また、死後や過去の世界。

あらば - こそ
［連語］
①（助詞「も」に付いて）あろうはずはない。まったくない。「遠慮会釈も―、ずかずかと部屋に上がりこんできた」
② もし…であるなら…であろうが、実際はそうではないから、の意を表す。

あらひと - がみ【現人神／荒人神】
①《この世に人間の姿をして現れた神の意から》天皇の称。あきつかみ。あきつみかみ。
② 随時、姿を現して、霊験あらたかな神。特に住吉や北野の神などをいう。

あら - ぼり【粗彫（り）／荒彫（り）】
［名］（スル）
彫刻で、ざっと粗く彫ること。また、その彫ったもの。

あらまし - ごと【あらまし事】
前もって、こうなるだろうと推測されること。将来の予想、または計画や希望。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あら‐むしゃ【荒武者】
① 荒々しい武者。勇猛な武士。
② 乱暴とみえるほどに意気盛んな者。がむしゃらな者。「政界の―」

ア‐ラ‐モード【(フランス)à la mode】
《流行の、の意》
① 最新流行。また、その型。「秋の―」
② 洋菓子などにアイスクリーム・生クリーム・果物などを添えたもの。「プリン―」

あら‐やま【荒山】
険しく、人けのない寂しい山。

あら‐ゆ【新湯】
沸かしたばかりで、まだ人が入っていない風呂。さらゆ。「―は年寄りには毒だ」

あら‐らか【荒らか】
［形動］［ナリ］
荒々しいさま。激しいさま。
「声も―に呼ばわりました」

ありあり‐て【有り有りて／在り在りて】
［副］
ずっとこのようにしていて。「はるか昔より、そこに―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あり - あわ・せる【有り合（わ）せる／在り合（わ）せる】
［動サ下一］ありあは・す［サ下二］
① たまたまそこにある。「―・せた紙に書く」
② ちょうどその場にいる。居あわせる。

あり - がお【有り顔】
いかにも何かがありそうな顔つきやようす。もっともらしい態度。

蟻(あり)が鯛(たい)なら芋虫(いもむし)ゃ鯨
「ありがたい」の「あり」を蟻に、「たい」を鯛にかけたしゃれ。

ありつき - がお【有り付き顔】
慣れた顔つき。物慣れたようす。

蟻(あり)の甘きにつくが如(ごと)し
利益のあるほうに、人が群がり集まることのたとえ。

ありがた - なみだ【有（り）難涙】
ありがたく、もったいないと感じて流す涙。感謝の喜びにあふれる涙。感涙。随喜の涙。

ありがた - や【有（り）難屋】
① 神仏をむやみに信仰する人。特に、門徒衆をいうことがある。
② 権威者の言うことを無批判に尊ぶ人。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あり - にく・し【在り悪し】
［形ク］
生きるのがむずかしい。生きていにくい。「人の世は―・し」

蟻(あり)の一穴(いっけつ)天下(てんか)の破(やぶ)れ
大事は、ほんのささいなことから起こる。ちょっとしたことが原因で、たいへんなことになる。

蟻(あり)の思いも天に登る
弱小な者でも一心に念じれば望みが達せられることのたとえ。蟻の思いも天に届く。

蟻(あり)の熊野(くまの)参り
多くの人がぞろぞろ列を作って行くことを、参詣人を引き合いに出したたとえ。

あり - の - ことごと【有りの悉】
ある限り。ありったけ。

あり - の - すさび【在りの遊び】
生きているのに慣れていいかげんに過ごすこと。なおざりに暮らすこと。ありのすさみ。

蟻(あり)の這(は)い出る隙(すき)もない
少しのすきまもないほど、警戒が厳重なことのたとえ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

ありや - なしや【有りや無しや】
［連語］
あるかないか。あるかないかわからないくらい目立たないさま。「―の細かい模様」

あり - わた・る【在り渡る】
［動ラ四］
ある状態のままでいつづける。

あり - わ・ぶ【在り侘ぶ】
［動バ上二］
生きているのがつらくなる。住みにくく思う。

あるか - なきか【有るか無きか】
［連語］
① あるのかないのかわからないほどに、かすかなようす。また、存在が意識されないほど存在価値のないようす。「―の傷」「会社では―の人物だが」
② 存在するかしないか。「あやまちの―を知らぬ身はいとふに似たる心地こそすれ」
③ 生きているのかどうかわからないほど衰えているようす。

あるか - なし【有るか無し】
［連語］
あるのかないのかわからないほど、ごくわずかであるようす。「―の汚れ」

あるとき - しょうぶ【有る時勝負】
金銭を持っているときに、思いきった勝負などをすること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あるとき - ばらい【有る時払い】
品物の代金や借金などを、期限を決めないで、お金のあるときに支払うこと。

有る時払いの催促なし
借金の返済について、お金の余裕があるときに返せばよく、催促もいっさいしないということ。最も寛大な返済条件をいう。

有(あ)るにも有ら◦ず
生きているのかどうかもわからないような状態。また、気が転倒して正気を失った状態をいう。無我夢中だ。

アルファ - ブロガー【alpha blogger】
ブロガーの中でも、多数の支持者がいて大きな影響力を持った人。

吾(あれ)かにもあら◦ず
自分か人かわからないの意で、夢のような気持ち、気抜けしてぼんやりしているさまをいう。

あれ - どめ【荒れ止め】
皮膚の荒れるのを防ぐこと。また、そのために塗る化粧品・薬品類。

吾(あれ)にも非(あら)◦ず
われを忘れて、呆然としているさま。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

彼(あれ)や此(こ)れや
いろいろ。さまざま。あれこれ。「―と心配する」

あわあわ - し・い【淡淡しい】
［形］あはあは・し［シク］
《形容詞「あわい」を強めた語》
味や色などが薄い。また、ほのかである。「―・い水彩画」

あわ - だ・つ〔あは - 〕【粟立つ】
［動タ五（四)］
恐怖や寒さなどのため、毛穴が収縮して、皮膚一面に粟粒ができたようになる。鳥肌が立つ。「凄惨(せいさん)な現場を見て全身が―・つのを覚えた」

慌(あわ)てる乞食(こじき)は貰(もら)いが少(すく)ない
先を争って貰おうとすると、反感を買って貰いが少なくなるものである。急ぎすぎると、かえって悪い結果を招くという戒め。

哀(あわ)れを止(とど)・める
① 悲しみや同情を一身に集める。「ここに哀れを止めしは」の形で説教節などに常套(じょうとう)句として用いられた。「―・めたのは帰らぬ飼い主を待つ犬の姿だった」
② 深い感動がいつまでも残る。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

泡(あわ)を食・う
驚きあわてる。「―・って逃げ出す」

泡(あわ)を吹か・す
人を驚かし、あわてさせる。

あんあん - り【暗暗裏／暗暗裡】
（「暗暗裏に」「暗暗裏の」の形で）
人の知らないうち。ひそかな状態。内々(ないない)。「―に事を運ぶ」「―の約束」

あん - いつ【安逸／安佚】
［名・形動］
気楽に過ごすこと。何もせずに、ぶらぶらと遊び暮らすこと。また、そのさま。「―をむさぼる」「―な日を送る」

あん - うつ【暗鬱】
［名・形動］
気持ちが暗くふさぎこんでいること。また、そのさま。「―な表情」

あん - うん【暗雲】
① 真っ黒な雲。今にも雨や雪が降りだしそうな気配のある暗い雲。「―が垂れ込める」
② 戦争などの危機が迫りくる気配。「国際情勢に―が漂う」
③ 心を覆い閉ざしている苦しみや悩み。「―が一挙にはれる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あん - えい【暗影／暗翳】
① 暗いかげ。「―と光と熱とを帯びた雲の群」
② 将来に不安をいだかせるようなきざし。「前途に―を投ずる」

あん - かい【暗晦】
［名・形動］
暗いこと。また、そのさま。晦暗。「時代の―な不安さ」

あん - かん【安閑】
［ト・タル］［形動タリ］
① のんびりとして静かなさま。心身の安らかなさま。「紅だか白だか要領を得ぬ花が―と咲く」
② 危急に際して、何もせずぼんやりしているさま。「―としてはいられない」

あん - が【安臥】
［名］（スル）
からだを横たえて楽にすること。「床に―する」

あん - き【安危】
安全であるか危険であるかということ。「一国の―にかかわる重大事」

あん - きょ【安居】
［名］（スル）
① 気楽にのんびり暮らすこと。「本国に在りて―なす国民に比して」〈独歩・愛弟通信〉
② 現在の状態に安心していること。「今の繁栄に―してはならない」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あん - きょ【暗渠】
地下に埋設したり、ふたをかけたりした水路。暗溝。→開渠(かいきょ)

あん - きん - たん【安近短】
費用が安く、距離が近く、日程が短いこと。旅行・行楽の傾向をいうもので、小旅行や日帰りで楽しむレジャーなどをさす。

あん - くん【暗君】
判断力のとぼしい君主。暗主。⇔明君。

あん - ぐ【暗愚】
［名・形動］
物事の是非を判断する力がなく、愚かなこと。また、そのさま。「―な為政者」

あん - けつ【暗穴／闇穴】
① 暗い穴。洞窟(どうくつ)。「うたてや太陽に―、えでんにも蛇の住みし人の世ぞかし」
② 人をののしる語。あほう。ばか。まぬけ。

あん - こ【安固】
［名・形動］
しっかりと安定していること。また、そのさま。「―たる地位を築く」

あん - こう【暗紅】
黒みがかったあかい色。黒ずんだ紅色。「―色」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あん - こう【暗香】
どこからともなくにおってくる香り。やみに漂う花の香り。多く詩などで梅の香りをいう。

鮟鱇(あんこう)の餌(え)待ち
鮟鱇がえさを待つときの姿のように、ぼんやりと口を開けているようす。

あん - ごう【暗合】
［名］(スル)
思いがけなく物事が一致すること。偶然に一致すること。「思いがけず意見が―する」

あんじ - がお〔 - がほ〕【案じ顔】
心配そうな顔。気遣わしげなようす。「―を浮かべる」

あんし - じゅつ【安死術】
安楽死を施行する方法。

あんし - しょく【暗紫色】
黒みがかった紫色。

あん - じゃく【暗弱／闇弱】
［名・形動］
ものの道理がわからず、気力にとぼしいこと。また、そのさま。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あん - しゅう【暗愁】
心を暗くする悲しい物思い。

あん - しゅつ【案出】
［名］（スル）
工夫して考え出すこと。発案。「新しい技法を―する」

暗礁（あんしょう）に乗（の）り上（あ）・げる
思わぬ障害が出てきて物事の進行が阻まれる。「捜査が―・げる」

あん - じゅ【庵主】
《古くは「あんしゅ」とも》
① 庵室の主人。
② 僧で庵室を構えている者。特に、尼寺の主である尼僧。
③ 茶の湯で、草庵の茶室の主人。

あん - じゅんのう【暗順応】
暗い所で目が慣れて、しだいに物が見えるようになること。⇔明順応。

あんずる - に【案ずるに／按ずるに】
［連語］
思うに。多く自分の考えを述べるとき、冒頭に用いる。

案（あん）ずるより産むが易（やす）し
物事はあれこれ心配するより実行してみれば案外たやすいものだ。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あんせい - ど【安静度】
病気療養中に患者が守るべき安静の程度。

あんぜん - しんわ【安全神話】
確実な証拠や裏付けがないにもかかわらず、絶対に安全だと信じられている事柄。
「―が崩壊する」

あん - ぜん【暗然／黯然／闇然】
［ト・タル］［形動タリ］
① 悲しみ、絶望などで心がふさぐさま。気落ちするさま。「―として云うべき言葉もなく」
② 暗いさま。黒いさま。また、はっきりしないさま。「沖より来る響、―として湧く力」

あん - たん【暗澹】
［ト・タル］［形動タリ］
① 薄暗くはっきりしないさま。暗く陰気なさま。「曇空には雲が―と動いていた」
② 将来の見通しが立たず、全く希望がもてないさま。「―とした表情」「―たる人生」

アンチヒーロー【antihero】
一般的な英雄像に当てはまらず、むしろそれとは逆の、ごく平凡な主人公。

アンチ - フォルム【(フランス)anti-forme】
《形を否定した、の意》
従来の伝統的な服の形を壊して表現しているファッションのこと。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

アンチマグネチック【antimagnetic】
時計などが磁石によって狂わないようにしてあること。

あん - ちゃく【安着】
［名］(スル)
途中事故なく目的地に着くこと。「―の知らせが届く」

あん - ちょう【暗潮】
① 表面に現れない潮の流れ。
② 表面に現れない風潮・勢力。「政界の―」

あん - ちょう【暗調】
調子や気分が暗い感じであること。また、絵画や写真のできばえが暗いこと。「―を帯びた歌」

案(あん)に落・つ
思ったとおりになる。また、計略にひっかかる。「敵の―・つ」

案(あん)に相違・する
考えていたことと違う。予想が外れる。案に違(たが)う。「―・して応募者が多かった」

あん - ねい【安寧】
無事でやすらかなこと。特に、世の中が穏やかで安定していること。「社会の―を乱す」「―秩序」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

案(あん)の如(ごと)く
思ったとおり。予測したとおり。

アンビバレンス【ambivalence】
同一対象に対して、愛と憎しみなどの相反する感情を同時に、または、交替して抱くこと。精神分析の用語。両面価値。両面価値感情。

アンビバレント【ambivalent】
［形動］
相反する意見を持つさま。両面の。また、相反する感情が同時に存在するさま。「―な感情を抱く」

あん - ぶ【鞍部】
山の尾根のくぼんだ所。コル。

あん - ぶん【案分／按分】
［名］(スル)
基準となる数量に比例して物を分けること。「頭数に応じて、利益を―する」

あん - ぶん【案文】
［名］(スル)
案として作った文章。また、その文章を書くこと。あんもん。「―を練る」「教書を―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

あんもく - ち【暗黙知】
主観的で言語化することができない知識。言語化して説明可能な知識（形式知）に対し、言語化できない、または、たとえ言語化しても肝要なことを伝えようがない知識のこと。

あん - や【暗夜／闇夜】
暗い夜。やみよ。

あんやのつぶて【暗夜の礫】
不意に受ける襲撃。防ぎようのないことにたとえる。

アンラーニング【unlearning】
既得の知識・習慣を捨てること。環境変化の激しい現代社会を生き抜くために、過去の経験にとらわれないよう、意識的に学習知識を捨て去ること。

あん - りゅう〔 - リウ〕【暗流】
表面に現れない水の流れ。また、表面に立たない不穏な動き。「底の方に気持の悪い―を潜(ひそ)めながら」

あん - るい【暗涙】
人知れず流す涙。「―にむせぶ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

おわりに

【あいさつ】

語彙辞典を読んでくださり、ありがとうございました。

当レポートを制作したショウヘイと申します。

私は旅する作家という生き方を理想としています。日本や世界の各地を渡り歩くことで、作家としての引き出し（人生経験）を増やし、より良質な物語を世に送り出し続ける……そんな自由な作家生活です。

また、個人で稼ぐ能力を身に付けることで、会社に時間と場所を縛られない人生の実現も目指します。個人で安定した収入を得られれば、出版社の編集者の言いなりにならずに、自分が心から好きな物語を創作できるようにもなるからです。

私が運営しているブログ【ノマドクリエイターの執務室】では、旅する作家になるために役立つ情報を発信しています。もちろん、小説家・ラノベ作家として活躍するために役立つ創作論も公開しています。

時間と場所に縛られない、新しい作家の生き方に興味がありましたら、ぜひブログを覗いてみてください。

↓　↓　↓

■ ブログ：ノマドクリエイターの執務室（https://ノマドクリエイター.net）

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.